

# 伝統工芸の みりょくを伝えよう

伝統工芸を調べて、そのみりょくについて説明する文章を書きましょう。また、リーフレットを作つて、友だちに伝えましょう。

## 書くためのじゅんび

### 1 伝統工芸を決める



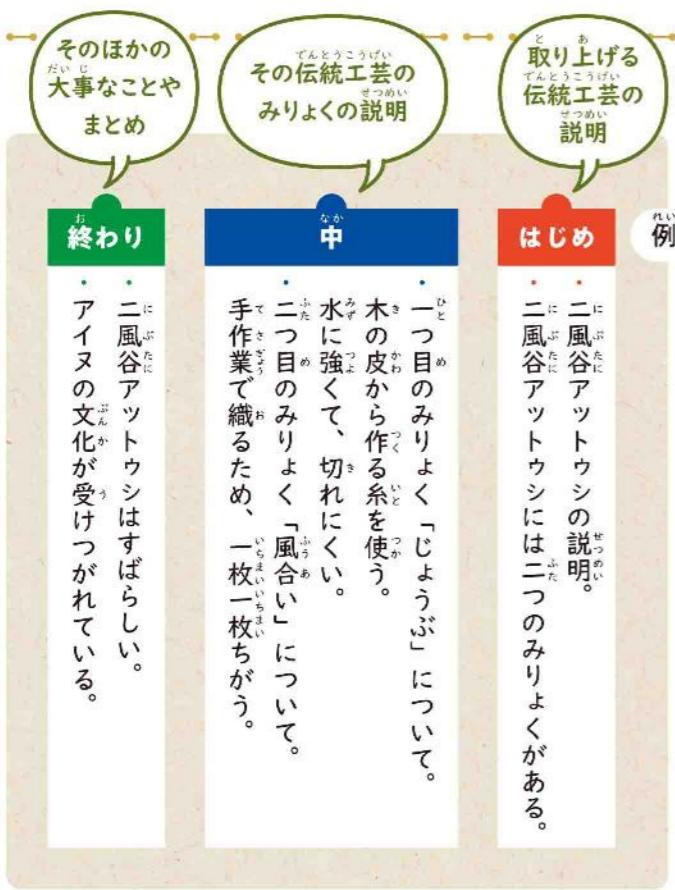
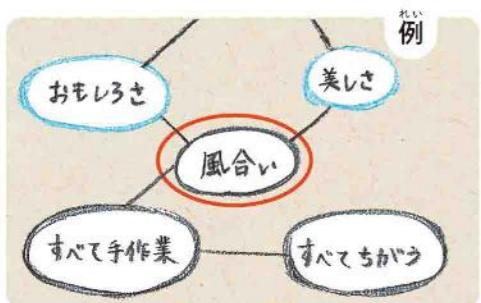
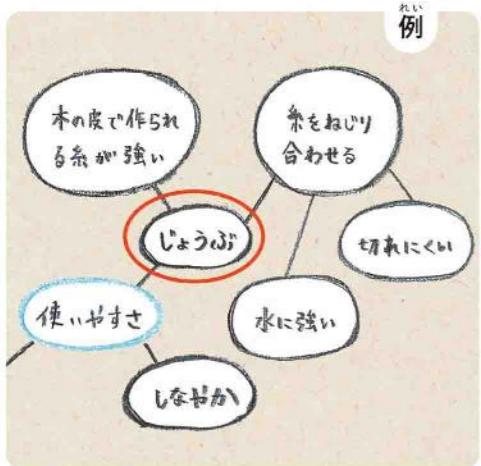
身近な地いきにある伝統工芸を調べましょう。本や地図で作っているパンフレット、インターネットなどで調べることができます。興味をもつたものに決めるとよいでしょう。

### 3 よりくわしく調べる

書き出したみりょくから、しようかいするものを二つほど選びます。それらについてさらにくわしく調べたことを、マップに書き足していきます。



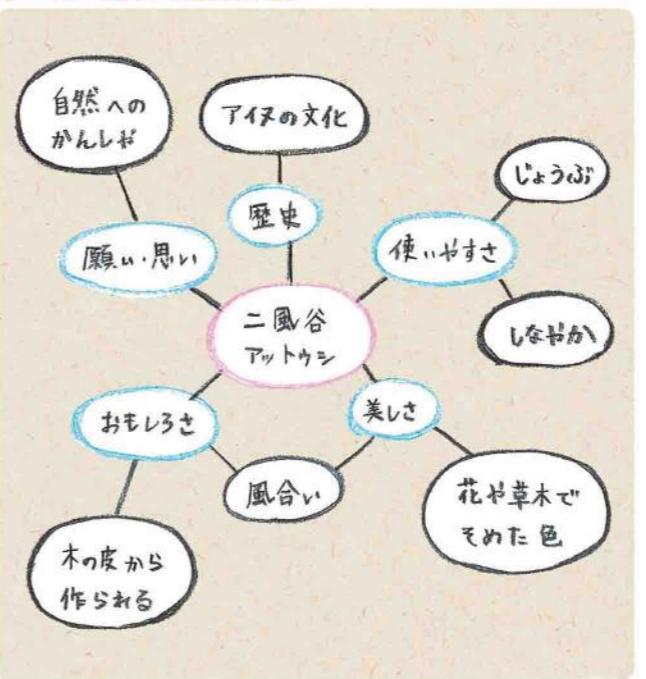
例では「じょうぶ」と「風合い」を選びました。さらに調べたことを、マップに書き足していきます。



左の例のように、文章を「はじめ」「中」「終わり」の三つに分けて組み立てます。みりょくの説明は「中」で書きます。みりょくをわかりやすく伝えるために、どんな理由や例をあげたらよいかを考えましょう。

### 4 文章の組み立てを考える

#### ●マップを使った整理の例



5つのみりょくに当てはまるものを書き出し、線で結びます。最初のみりょくは5つでなくても、2つ以上あれば十分です。

### 2 その伝統工芸を調べてみりょくを書き出す

みりょくには大きく分けて「使いやすさ」「美しさ」「おもしろさ」「願い・思い」「歴史」があります。調べてわかつたことを、マップを使って、書き出しながら整理しましょう。

調べ方は  
40 ~ 41 ページへ



# 堺打刃物

— プロが使う  
切れ味のよい刃物 —

## しら調べ 2

できあがった包丁の刃の部分を、電動の円砥石でととのえる。その後、数種類の砥石で何度も研ぐ。



地金に刃金をつけて炉の中で熱したあと、ハンマーで打ちのばして包丁の形にする。

No.

興味を広げる主な伝統工芸 ● 越前打刃物(福井県) ● 土佐打刃物(高知県)

もう一つのみりょくは、武士が持つ刀や、日本に伝來したころの鉄砲を作つたという歴史です。織田信長や豊臣秀吉が生きていたころだと思うと、わくわくします。鍛冶師と研師による分業は、そのころから受けつがれています。

堺市あたりには、千年以上前から、鉄を加工するぎじゅつがあつたそうです。時代に合わせて作るものを変え、そのぎじゅつを發てんさせてきたのは、すばらしいことだと思います。

ます。そうしてできあがつた、強くてしなやかな刃を、「研師」がくり返し研ぎ上げることで、切れ味がするどくなります。

堺打刃物は、地金というやわらかい鉄と、刃金といふかたい鋼を合わせて作られます。炉の中で熱し、「鍛冶師」がハンマーでたたいてきたえあげ

## しら調べ 1

さかいうちはもの 堀打刃物の包丁。右から、野菜を切る薄刃、魚をさばく出刃、刺身をつくる柳刃。食材のせんいなどをいためることなく切れるので、料理がおいしく作れる。



## しら調べ 1

さかいうちはもの 堀打刃物の包丁。右から、野菜を切る薄刃、魚をさばく出刃、刺身をつくる柳刃。

食材のせんいなどをいためる

ことなく切れるので、料理がおいしく作れる。

しらべ  
2

右ページの花びんを作つて  
いるところ。何もつけずに焼い  
た素焼きの花びんに、吳須と  
いう絵の具で藍色の部分をえ  
がいている。吳須は、高温で  
焼くと藍色になる。

しらべ  
1

げんだいに作られた、伊万里・有田焼の花びん。白地は花の部分のみで、黃色に藍色がはえて、あざやかな印象をあたえる。



# 伊万里・有田焼

海外でも  
たたえられた  
まつ白な磁器

なるのです。  
二つ目は、白地に藍色だけのものから、何色も使  
うあざやかなものまで、さまざまな種類の色つけがあることです。たとえば、約三百五十年前に誕生した「柿右衛門様式」とよばれるぎじゅつで作られる作品は、藍色に赤、黄、緑を使い、美しい白地をたっぷり見せるように絵がえがかれます。伊万里・有田焼は、古くからヨーロッパに輸出され、その美しさから、海外でまねをされたそうです。日本の磁器が世界でみとめられたのは、ほこらしいことで、今もそのぎじゅつが受けつかれて  
いるのは、すばらしいことだと思います。

一つ目は、すきとおるような白い色です。伊万里・有田焼の原料は、有田町の泉山や、熊本県の天草でとれる陶石です。その陶石をくだいて作られる土は、高温で焼くと、どう明感のある白色と